

# AMAKURU RWANDA

青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊

ルワンダ・コミュニティ開発(水の防衛隊)



野田 恵莉



Muraho! (こんにちは!)

東アフリカ、ルワンダから

さいごのニュースレターをお届けします。

## TODAY'S TOPIC

- わたしの活動・任地のくらし  
「2年間の活動を振り返って」



## 2年間の活動を振り返って

2018年4月末よりゴマ郡ムラマセクターで始まった活動も、いよいよ終わりの時期がやってきました。振り返れば、この2年間、「少しでも住民の生活をよくしたい」と思い、何ができるかを考え続けてきました。赴任後、生活環境が一変し、私は水道のない土地で暮らしていくのに精一杯でしたが、住民や同僚と同じ環境で暮らし、課題を共有したからこそ、すべてが自分ごとになりました。そして、日々同僚と意見を交わし、解決に向かって一緒に取り組んできました。また、よそ者であったからこそ住民にとって当たり前だった日常に疑問を抱き、新しい発想で、新たな風を任地ムラマに吹かせることができたと思います。

### 住民が地域で健康に暮らせるように

さて、私は2年間で「住民が地域で健康に暮らす」ことができるよう3つの活動を行いました。

#### 1: ジェリカン洗浄キャンペーン

～汚染されていない安全な水を手に入れる～

ジェリカン(プラスチックの水保管容器)洗浄を通して不衛生な水に起因する病気に対する意識を高め、ジェリカンを洗う習慣をつけることが目的の活動です。私自身もジェリカンに水を溜めて生活していたのですが、内部の汚れに気づいたときの衝撃は忘れられません。1年間、洗浄方法の試行錯誤をし、残り1年間でコミュニティヘルスワーカー(村の健康指導員)や同僚とキャンペーン普及に努めた結果、ジェリカンを定期的に洗う人が2割増えました。



## 2：井戸の維持管理

～必要な時に安全な水を手に入れる～

住民組織による井戸の維持管理が機能しておらず、井戸は放置され、行政と協力できていない状況でした。そこで、住民組織、行政とともに、井戸の稼働状況を共有し、水料金徴収の試行などを行いながら、任地で運用可能な管理体制の案をつくりました。



## 3：野菜チャパティ(薄焼きパン)づくりを通じた栄養改善

住民の食事には、ビタミンやミネラルの摂取量が少ないことに気づき、栄養素を意識して摂取できるように、野菜を練り込んだチャパティを提案しました。ルワンダ人の好きなチャパティを楽しみながら作り、栄養の知識も同時に学ぶワークショップを住民向けに開催した結果、食事に野菜を取り入れる人が増えました。また、売店のママ(先月号紹介)は、野菜チャパティづくりを通して住民に栄養の知識を広げ続けています。



## 新たな出発点を示した2年間

2年間の活動で何が残せたのか。3つの活動から住民が地域で健康に暮らすための“出発点”をつくることができました。自分の足で村へ通い、キーパーソンと話し、実際にやってみる。最後まで拙い現地語でしたが、少しずつの積み重ねが人間関係と信頼を築き、思いが住民に伝わった結果、活動が動いたのだと思います。住民でもあり、よそ者でもある私だからこそ、現地の人に暮らしを見つめ直すきっかけをつくることができました。今後、住民が自分たちで地域をよくするために活動し続けてくれることを祈っています。



最後に、ルワンダ人から教わったことがあります。それは、顔を合わせて話をしたり、時間を共有すること、助け合いの精神や感謝の心を持つことの大切さです。そんな温かいルワンダ人に支えられた、かけがえのないルワンダ生活でした。

そして、2年間、“AMAKURU RWANDA”をお読みいただき、ありがとうございました！ Murabeha～！（またね！）

